

名古屋大学附属図書館研究開発室
年次報告
2023

*Annual Report of Nagoya University
Library Studies 2023*

目 次

I. 名古屋大学附属図書館研究開発室規程	1
II. 室 員 名 簿	2
III. 事 業 報 告	3
IV. 研究開発概況	5

I. 名古屋大学附属図書館研究開発室規程

制 定 平成 16 年 4 月 1 日規程第 177 号

改正令和 2 年 9 月 14 日名大規程第 99 号

(設置)

第 1 条 名古屋大学附属図書館に研究開発室を置く。

(目的)

第 2 条 研究開発室は、名古屋大学附属図書館における学術情報の収集、保存、提供等の教育研究支援活動に関する研究開発及び図書館情報教育並びに図書館業務への支援及び助言を行い、もって図書館の機能の強化を図るとともに、高度な図書館サービスの実現に寄与することを目的とする。

(室長)

第 3 条 研究開発室に室長を置き、附属図書館長をもって充てる。

2 室長は、研究開発室の業務を掌理する。

(室員)

第 4 条 研究開発室に、専任室員を置くことができる。

2 専任室員は、本学大学教員のうちから、附属図書館長の推薦に基づき、東海国立大学機構の長が任命する。

3 第 1 項に定めるもののほか、研究開発室に兼任室員を置くことができる。

4 室員は、室長の指示に従い、研究開発室の業務に従事する。

(雑則)

第 5 条 この規程に定めるもののほか、研究開発室に関し必要な事項は、附属図書館長が定める。

附則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附則(令和 2 年 9 月 14 日名大規程第 99 号)

この規程は、令和 2 年 9 月 14 日から施行し、改正後の第 4 条第 1 項の規定は、令和元年 7 月 1 日から適用する。

Ⅱ. 室員名簿

	氏名	専門領域／所属・職名／着任
室長	佐久間 淳一	言語学 副総長（図書館担当）、附属図書館長 人文学研究科・教授 2020年4月～
兼任室員	松原 茂樹	自然言語処理・デジタル図書館 情報基盤センター・教授 2023年10月～
兼任室員	小田 昌宏	機械学習・医用画像処理 情報基盤センター・准教授 2023年10月～
兼任室員	頼 偉寧	認知科学 教養教育院・特任准教授 2014年4月～
兼任室員	斎藤 夏来	日本史学 人文学研究科・教授 2017年4月～
兼任室員	石川 寛	日本史学 人文学研究科・准教授 2010年4月～

Ⅲ. 事業報告

①室員及び研究開発内容

室長	佐久間 淳一	全体統括 デジタル人文社会科学の推進に向けた検討
兼任教授 兼任准教授	松原 茂樹 小田 昌宏	(1)学術データの管理・公開・利活用のための研究データ ガバナンスの構築 (2)データリポジトリの自動生成に向けた学術論文テキ ストの解析 (3)オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方 の検討
兼任准教授	頼 偉寧	(1) Develop a series of Nagoya University library workshops on “Logical Thinking Skills for Academic Writing”. (2) Develop the library workshop series into a preliminary course for the Mei-Writing summer camp. (3) Develop teaching materials for the workshop Series.
兼任教授	斎藤 夏来	(1)高木家の信仰生活について (2)野間家文書に関連して、附属図書館所蔵尾張藩医野間 家文書と、知多大仙寺伝来文書との関係に関わる論考 を練り直す。
兼任准教授	石川 寛	(1)高木家文書の文化庁調査に向けた整理作業および修理 事業 (2)高木家文書の補遺および東高木家治水文書の調査・ 整理 (3)木曾三川流域の歴史資料を中心としたコンテンツ開発 と地域連携強化

②活動概況

■ 学術データ基盤整備事業	
学術データ基盤整備部会、学術データ基盤整備ワーキンググループとの協働による学術データ基盤整備事業	通年
■ 教育学習支援事業	
Library workshop series on logical thinking skills for academic writing	2023年5月24日, 31日
■ 重要文化財「交代寄合西高木家関係資料」(高木家文書)の保存活用事業	
重要文化財「交代寄合西高木家関係資料」国庫補助修理事業(高木家文書の保存活用事業)	通年
常設展「旗本高木家と木曾三川流域治水」	2023年4月1日～10月10日 2024年1月11日～
■ 社会貢献事業	
第19回名古屋大学ホームカミングデー附属図書館企画展「『思想史の森』水田先生が集めた書物展」	2023年10月21日～11月8日
近代植物学の祖 生誕20年記念 伊藤圭介文庫展示会「図譜からたどる自然へのまなざし」	2023年12月6日～12月20日
■ その他	
図書館将来構想プロジェクトチームと逸村先生との意見交換会／「デジタル・ライブラリーを考えよう！」(第2回)	2023年10月31日

③刊行物

名古屋大学附属図書館研究年報 第21号	2024年発行
名古屋大学附属図書館研究開発室年次報告2023	2024年発行

IV. 研究開発概況

■ 佐久間 淳一（室長・副総長（図書館担当）・附属図書館長・人文学研究科教授）

■ 研究開発事項

全体統括

デジタル人文社会科学の推進に向けた検討

■ 研究開発概況

情報基盤センターと附属図書館が構築、整備する情報基盤・学術データ基盤を活用し、データ駆動型の学際研究を推進するデジタル人文社会科学研究推進センターの令和6年4月1日の発足に向けて学内外機関と連携・調整し検討を進めた。

■ 成果のリスト

[その他の役割]

1. 国立大学図書館協会理事館館長
2. 国立大学図書館協会システム委員会委員長
3. 東海北陸地区国立大学図書館協会会長
4. 東海地区大学図書館協議会会長
5. 東海地区図書館協議会会長
6. 名古屋大学高等教育研究センター主催学生論文コンテスト審査員

- 松原 茂樹（兼任室員・情報基盤センター教授）
- 小田 昌宏（兼任室員・情報基盤センター准教授）

■ 研究開発事項

- (1) 学術データの管理・公開・利活用のための研究データガバナンスの構築
- (2) データリポジトリの自動生成に向けた学術論文テキストの解析
- (3) オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方の検討

■ 図書館サービスへの発展性

- (1) 学術データの取扱いに関する指針を整備し、本学におけるデータ公開活動を促進
- (2) AI の活用により機関リポジトリを拡張し、研究データの発見可能性を向上
- (3) 大学図書館機能のデジタル化を前提とした新しいデジタルライブラリーの展開

■ 研究開発概況

- (1) 学術データの管理・公開・利活用のための研究データガバナンスの構築
 - ・ 名古屋大学構成員による学術データの適切な管理・公開・利活用を支援すること、及び、本学における活動を発信する目的で、名古屋大学の学術データ管理・公開・利活用支援サイトを作成した (<http://rdm.nagoya-u.ac.jp>) [講演 1,2]。
 - ・ 文部科学省「AI 等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」(2022-2026) の「ルール・ガイドライン整備チーム」のリーダー機関として、研究データガバナンス構築、及び、機械可読ルール整備に取り組んだ [講演 8,10]。
 - ・ 地域における研究データエコシステム拠点の形成を目指し、「研究データエコシステム東海コンソーシアム」を設立した。東海地域を中心に 12 の学術機関が参画し、情報共有や研究データ資源の共用を進めている [講演 3,4,5,7,9]。
- (2) データリポジトリの自動生成に向けた学術論文テキストの解析
 - ・ データリポジトリの自動構築を目的に、論文から研究データ引用を獲得する手法を研究開発している（科研費・基盤（B））。本文や脚注、文献リスト上の URL 引用に着目し、その種類を機械的に分類する仕組みを実現した [論文 1]
 - ・ 研究資源のインターネット上での公開が進み、学術論文において様々な資源が URL 形式で参照されつつある。大規模論文データを対象にその動向、及び、利用可能性に考察した [論文 6 ※学生奨励賞受賞（筆頭著者）]。

- ・ 学術論文で引用された文献の、その論文において果たす機能を判別する手法を開発している。国際ワークショップ WIESP の Shared Task にエントリーされた研究のうち、最高性能の判別精度を達成した [論文 5]。
- ・ 被引用数による定量的な評価でなく、論文の貢献を質的に評価する仕組みを研究開発している (科研費・挑戦的研究 (萌芽))。論文テキストにおける引用の範囲を細粒度で特定することで、その引用の重要度を算定する [論文 3,7]。

(3) オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方の検討

- ・ 文部科学省『「2023 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会』において、新しい「デジタルライブラリー」の在り方について、特に、教育・研究支援機能、図書館の効果的な活用、人材、図書館連携について検討した。
- ・ 大学 ICT 推進協議会「研究データマネジメント部会」において、研究データ公開やグリーン OA 等に関わる学術支援などのテーマに AXIES2023 企画セッションを開催し、全国的な事例形成に取り組んだ [講演 6]。

■ 成果のリスト

[論文]

1. 和田 和浩, 角掛 正弥, 松原 茂樹: 論文における URL による引用を考慮した引用要否判定, 言語処理学会第 30 回年次大会 (2024).
2. 生駒 流季, 松原 茂樹: 論文の文献リストにおける研究データ引用の検出, 言語処理学会第 30 回年次大会 (2024).
3. Tomoki Ikoma and Shigeki Matsubara: Identifying Influential References in Scholarly Papers Using Citation Contexts, Proceedings of the 25th International Conference on Asia-Pacific Digital Libraries (ICADL-2023), pp. 152-161, Lecture Note in Computer Science, Vol. 14458, Springer (2023).
4. Tomoki Ikoma and Shigeki Matsubara: Paper Recommendation Using Citation Contexts in Scholarly Documents, Proceedings of the 37th Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation (PACLIC 37), Association for Computational Linguistics (ACL) (2023).
5. Tomoki Ikoma and Shigeki Matsubara: On the Use of Language Models for Function Identification of Citations in Scholarly Papers, Proceedings of the 2nd Workshop on Information Extraction from Scientific Publications (WIESP 2023) at AACL-IJCNLP 2023, pp. 130-135, Association for Computational Linguistics (ACL) (2023).

6. 和田 和浩, 松原 茂樹: 学術論文における URL による引用の動向とその利用可能性, 情報処理研究報告, インターネットと運用技術 (IOT), Vol. 2023-IOT-63, No. 2, pp.1-6 (2023).
7. 生駒 流季, 松原 茂樹: 学術論文における引用文脈を用いた参考文献の重要度の評価, 人工知能学会第 37 回全国大会論文集, 1E3-GS-6-04 (2023).

〔講演〕

1. 松原 茂樹: 「オープンサイエンス推進における研究データポリシーの役割」, 名古屋市立大学総合情報センター事業『大学における研究データポリシーの策定について』 (2024.3) .
2. 松原 茂樹: 「大学における研究者のための研究データ管理」, 県立広島大学セミナー (2024.3) .
3. 松原 茂樹: 「研究データエコシステム東海コンソーシアムについて」, 大学等におけるクラウドサービス利用シンポジウム (2024.2)
4. 松原 茂樹: 「研究データエコシステム東海コンソーシアムからみる研究データ: 研究データ管理・公開・利活用」, 琉球大学研究データ管理セミナー (2024.2)
5. 松原 茂樹: 「研究データエコシステム東海コンソーシアムの設立について」, 大学 ICT 推進協議会 2023 年度年次大会実行委員会企画セッション「研究データエコシステムの構築に向けた地域コンソーシアムの形成」 (2023.12).
6. 松原 茂樹: 「RDM 推進のための学内体制: 趣旨説明」, AXIES-2023 研究データマネジメント部会企画セッション『RDM 推進のための学内体制を考える ～ポリシー策定・DMP 作成・研究データ公開・グリーン OA 等に関わる学術支援～』 (2023.12) .
7. 松原 茂樹: 「研究データエコシステム東海コンソーシアム」, 令和 5 年度国立大学図書館協会東海北陸地区助成事業研修会『地域のコミュニティを考える: 学術データのコミュニティを一例に』 (2023.11) .
8. 松原 茂樹: 「研究データガバナンス構築に向けたルール・ガイドライン整備」, 研究データエコシステム構築事業シンポジウム (2023.9).
9. 松原 茂樹: 「研究データエコシステム東海コンソーシアムについて」, 第 2 回東海地区学術データ基盤セミナー (2023.7).
10. 松原 茂樹: 「大学の研究データガバナンスを支えるルールとツール: 趣旨説明」, NII 学術情報基盤オープンフォーラム 2023 RDM セッション『大学の研究データガバナンスを支えるポリシー・規程類とツール』 (2023.5).
11. 松原 茂樹: 「大学における研究データマネジメントのための情報基盤: 趣旨説明」, NII 学術情報基盤オープンフォーラム 2023 AXIES-RDM 部会との合同セッション『大学における研究データマネジメントのための情報基盤』 (2023.5).

■ LAI Wai Ling 賴 偉寧 (兼任室員・教養教育院特任准教授)

■ 研究開発事項

Continuation of the development of the teaching materials for the library workshops on logical thinking skills for academic writing.

■ 図書館サービスへの発展性

I have been providing regular workshops on logical thinking skills for academic writing since 2014. In 2024/2025, I will continue the workshops designed for both graduate and undergraduate students.

■ 研究開発概況

- ・ Continuation of the development of the teaching materials for the library workshops on logical thinking skills for academic writing.

■ 成果のリスト

[論文]

LAI, Wai Ling. How to write an attractive introduction. *Annals of Nagoya University Library Studies*. № 21, pp.61-73, 2024.3

[講演]

LAI, Wai Ling. The Argument Construction Guide. 5th International Symposium on Academic Writing and Critical Thinking. February 16, 2024.

[Textbook]

LAI, Wai Ling. How to develop research originality. Textbook for the workshop series on logical thinking skills for academic writing. Nagoya University Library. 2023.

[Workshops]

- LAI, Wai Ling. How to develop research originality – part I. Nagoya University Library workshop series on logical thinking skills for academic writing. Nagoya University Library. May 24, 2023.
- LAI, Wai Ling. How to develop research originality – part II. Nagoya University Library workshop series on logical thinking skills for academic writing. Nagoya University Library. May 31, 2023.

■ 齋藤 夏来（兼任室員・人文学研究科教授）

■ 研究開発事項

（１）高木家の信仰生活について

（２）野間家文書に関連して、附属図書館所蔵尾張藩医野間家文書と、知多大仙寺伝来文書との関係に関わる論考を練り直す。

■ 図書館サービスへの発展性

（１）（２）とも、附属図書館所蔵史資料の学術的価値を明らかにし、さらに高める試みである。

■ 研究開発概況

（１）高木家の信仰生活について

- ・ 文学部秋学期に担当した日本近世史史料学基礎演習（旧カリ）日本史史料学入門演習Ⅱ（新カリ）で、高木家の御用日記（高木家文書 F-3-(1)-9）宝暦6年1月1日条より同15日条まで、合計78箇条を解読し、翻刻データを作成した。高木家文書については従来、治水・防災関連に注目が集まりがちだが、信仰を含む地域の自然環境との共生（持続可能）や、近世武家女性の動向（ジェンダー）など、多面的な価値を含んでいることを、今後アピールしてゆく必要がある。

（２）野間家文書に関連して、附属図書館所蔵尾張藩医野間家文書と、知多大仙寺伝来文書との関係に関わる論考を練り直す。

- ・ 附属図書館研究年報17号（2020年3月）掲載の野間家文書に関する論考を練り直し、2023年10月発行の単著専門書の中に組み込み、より大きな構想のなかに位置づける作業を行った。

■ 成果のリスト

〔著書・単著〕 齋藤夏来『徳川のまつりごと—中世百姓の信仰的到達』吉川弘文館、1-304頁、2023年10月

〔エクセルデータ〕 高木家文書、宝暦六年御用日記、宝暦6年1月1日より15日まで全79行分（うち1行は見出し）の翻刻データ。

■ 石川 寛（兼任室員・人文学研究科准教授）

■ 研究開発事項

- （１）高木家文書の文化庁調査に向けた整理作業および修理事業
- （２）高木家文書の補遺および東高木家治水文書の調査・整理
- （３）木曾三川流域の歴史資料を中心としたコンテンツ開発と地域連携強化

■ 図書館サービスへの発展性

- （１）目録の刊行およびデジタルライブラリーへの登録等による高木家文書の利用環境の整備と充実。
- （２）周辺自治体と連携した地域資料の整理を通じて、木曾三川流域の歴史資料の所在情報の共有化を推進。

■ 研究開発概況

- （１）高木家文書の文化庁調査に向けた整理作業および修理事業

1.整理作業

名古屋大学附属図書館が所蔵する高木家文書について、昨年度に引き続き目録整備作業を実施した。

2.修理事業

国庫補助および住友財団の助成を得て、高木家文書の治水関係資料について修復を実施し、第1次3年計画を終えた。また、第2次3年計画に向けての修復資料の選定をおこなった。

- （２）高木家文書の補遺および東高木家治水文書の調査・整理

高木家文書の補遺について整理を進め、東高木家治水文書についても目録作成に向けた調査・整理に取り組んだ。

- （３）木曾三川流域の歴史資料を中心としたコンテンツ開発と地域連携強化

1.高木家文書デジタルライブラリー

高木家文書のデジタル化を進め、治水関係資料のデジタル撮影を継続実施した。また、「東海国立大学機構学術資産デジタルアーカイブ（仮称）」の構築にともなう高木家文書デジタルライブラリーの新システムへの移行作業を進めた。

2.パンフレット作成

高木家文書の内容や修復の成果を紹介する新たなパンフレットを作成し、資料館等で無償配布している。

(4) 高木家文書の利活用についての検討

2023年度名古屋大学宇宙地球環境研究所融合研究戦略課題「デジタルアーカイブの活用可能性と求められる機能について」において、高木家文書のデジタルデータの利活用や文理融合研究への展開について検討した。

■ 成果のリスト

[論文等]

- 1.石川寛「宝暦治水前の普請意見書の分析 その3」『名古屋大学附属図書館研究年報』21 2024年3月
- 2.石川寛「木曾三川流域の河川絵図～川通御用の役儀に用いられた絵図～」『会報河川文化』第103号 日本河川協会 2023年9月20日
- 3.石川寛「治水の記憶と伝存史料―「宝暦治水」をめぐって」『現代思想』2023年11月号 第51巻第14号 青土社 2023年11月1日
- 4.『国指定重要文化財 高木家文書 修理事業と文書の紹介』 共著、名古屋大学附属図書館・附属図書館研究開発室 2023年7月1日

名古屋大学附属図書館研究開発室年次報告

第 22 号 (2023 年度)

2024 年 3 月発行

編集・発行 名古屋大学附属図書館研究開発室
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
電話 052-789-3666

URL <https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/libst/>

E-mail tos-kikaku@t.mail.nagoya-u.ac.jp

